

# 食の安心・安全に関する 意識調査報告書

平成25年3月

鳥取県大山町



## 目次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果	2
III. 意見、要望等について	11
IV. まとめ	14
V. 調査票	15

## I. 調査の概要

### 1. 調査の目的

近年食に関する事件が相次ぎ、町民の食品の安全性に対する関心が高まっていることから、食品表示に対する意識や食品の安全性確保のために必要なことについて調査を行い、今後の食品安全行政、消費者行政の推進に活用する

### 2. 調査対象

- ・ 高校2年生の年齢にあたる方（H7.4.2～H8.4.1生）約160人
- ・ 20～70歳代 約3,600人

（各年代別に男性300人、女性300人を無作為抽出）

対象	配布数	回答数	回収率
全体	3,754	1,377	37%
高校生	154	46	30%
20代	600	134	22%
30代	600	201	34%
40代	600	192	32%
50代	600	237	40%
60代	600	294	49%
70代	600	273	46%

### 3. 調査実施期間

平成24年9月3日（月）～平成24年9月19日（水）

### 4. 調査内容

9項目の質問と自由記載

### 5. 調査・回収方法

返信用封筒を同封した調査票を各集落の保健推進員を通じて配布し、郵送にて回収（料金受取人払い後納郵便）

## Ⅱ. 調査結果

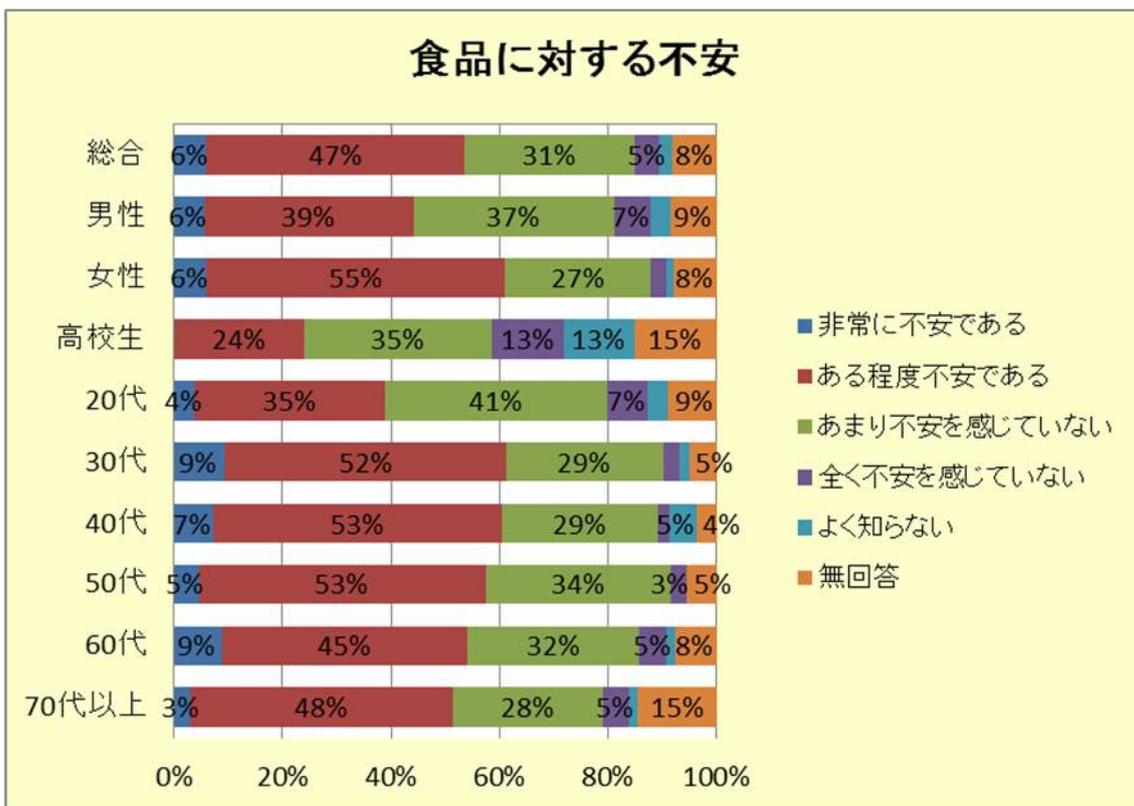
問1 食品に対する不安を感じていますか。

### 結果の概要

約半数の人が食に対して何らかの不安を感じている

高校生、20代は不安を感じている人の割合は比較的低い

非常に不安という人は6%と低いが、ある程度不安という人を合わせると半数以上になる。男女別で見ると、男性は45%、女性は61%の人が不安を感じており、男性より女性の方が不安を感じている人の割合が高い。年代別で見ると、高校生が最も低く24%、次いで20代が39%で、不安を感じている人の割合は他の年代と比較して低い。30代以上はどの世代も半数以上が食に対して何らかの不安を感じている。

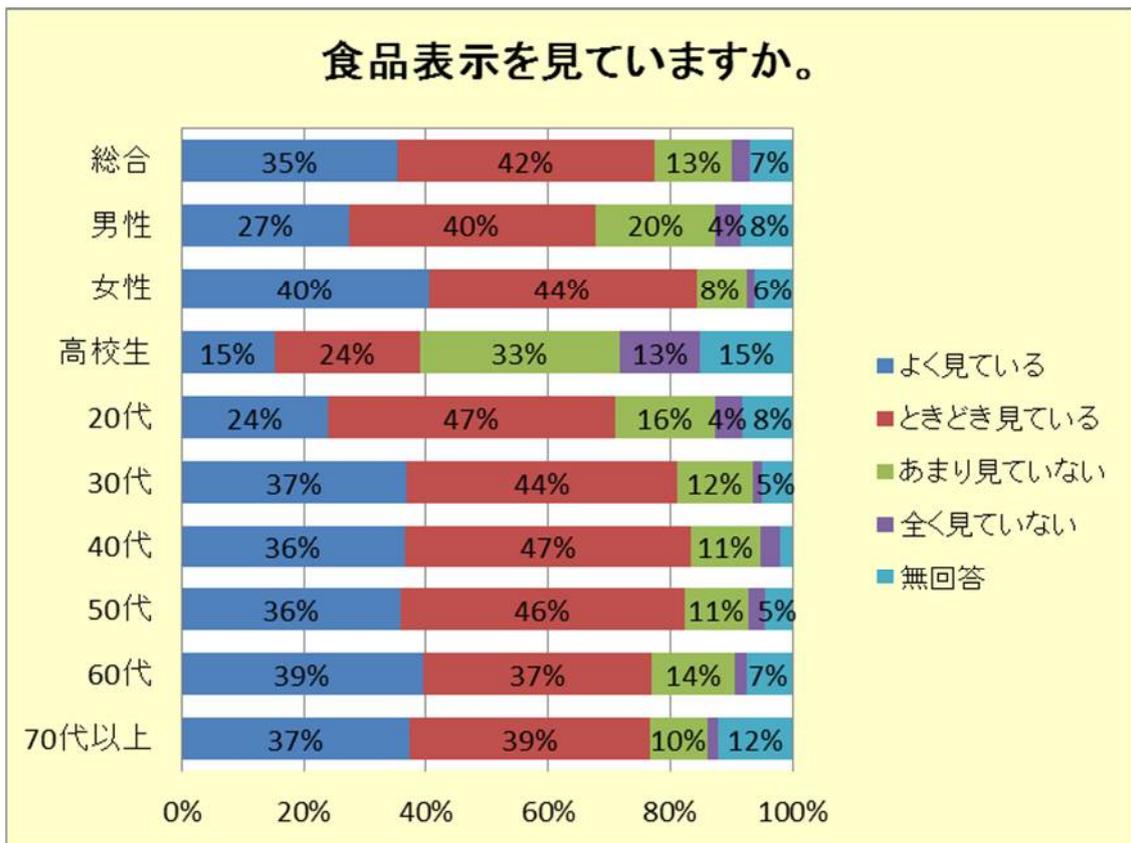


## 問2 食品表示を見ていますか。

### 結果の概要

約8割の人が食品表示を見ている

男女別で見ると、よく見ている人は男性が27%、女性が40%と男性より女性のほうが食品表示をよく見ている人の割合が高い。年代別で見ると、30代以上はほとんど差がなく、よく見ている人とときどき見ている人を合わせると、約8割の人が食品表示を見ている。一方、高校生は最も低く、よく見ている人とときどき見ている人を合わせても約4割となっており、見ていない人の割合が約半数を占めている。

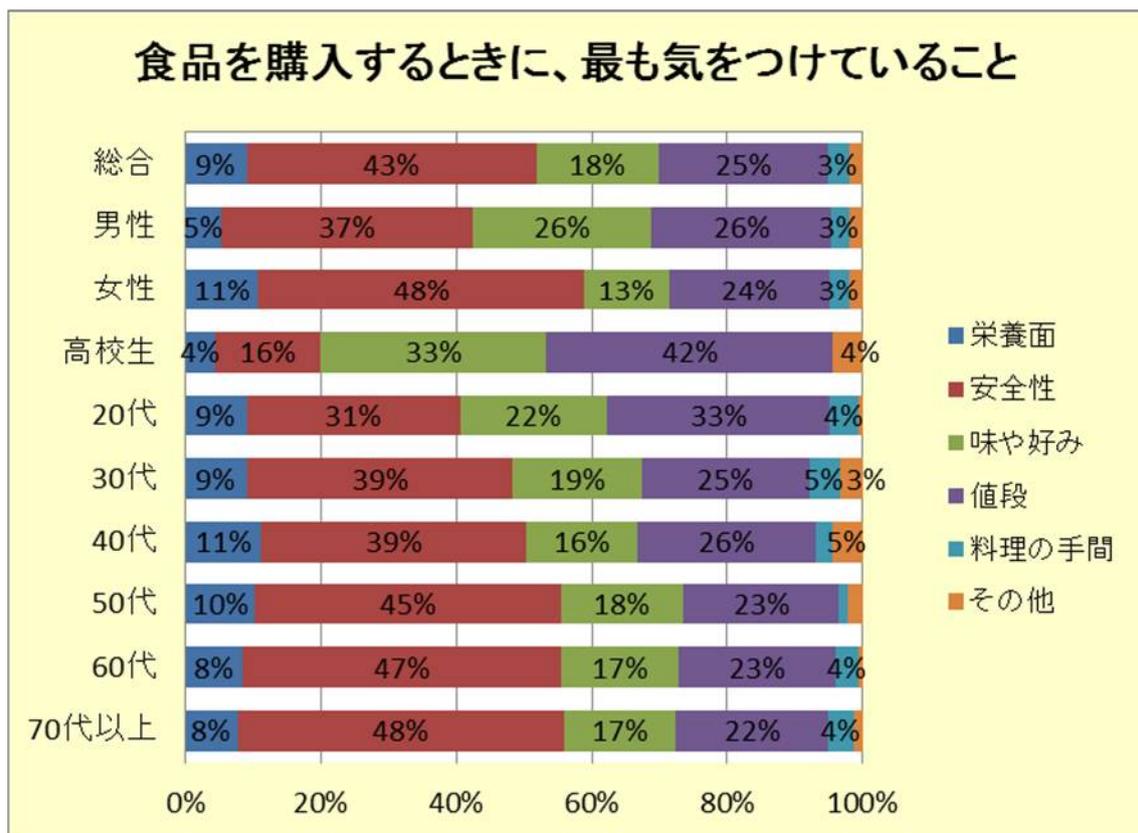


問3 食品を購入するときに、最も気をつけていることは何ですか。

### 結果の概要

食品を購入するときに最も気をつけているのは「安全性」

食品を購入するときに、安全性に次いで、値段、味や好み、栄養面の順で気をつけている人の割合が高い。男性よりも女性のほうが安全性に気をつけている人の割合は高く、男性は値段や味や好みを重視する人の割合が女性と比べて高い。また、若い世代ほど、安全性よりも値段や味や好みを重視する傾向にあり、年代が上がるにつれ、安全性に気をつける人の割合が高くなっている。

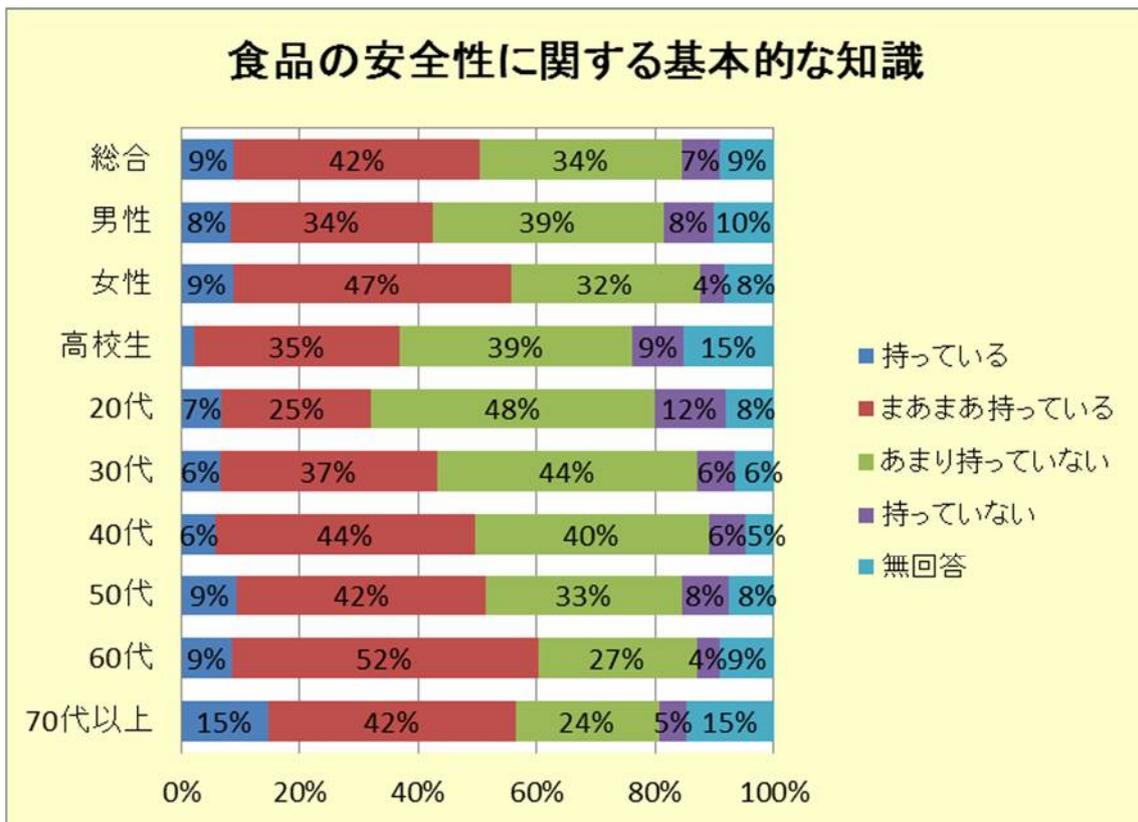


問4 食品の安全性に関する基本的な知識を持っていますか。

### 結果の概要

約半数の人が 自分は食品の安全性に関する基本的知識を持っていると答えている

持っていると答えた人は70代を除くどの年代でも10%未満ですが、まあまあ持っているを合わせると約半数の人が食品の安全性に関する基本的知識を持っていると答えている。男女別で見ると、男性より女性の方が基本的知識を持っていると答えた人の割合が高い。また、年代が高くなるにつれ基本的知識を持っていると答えた人の割合も高くなっている。

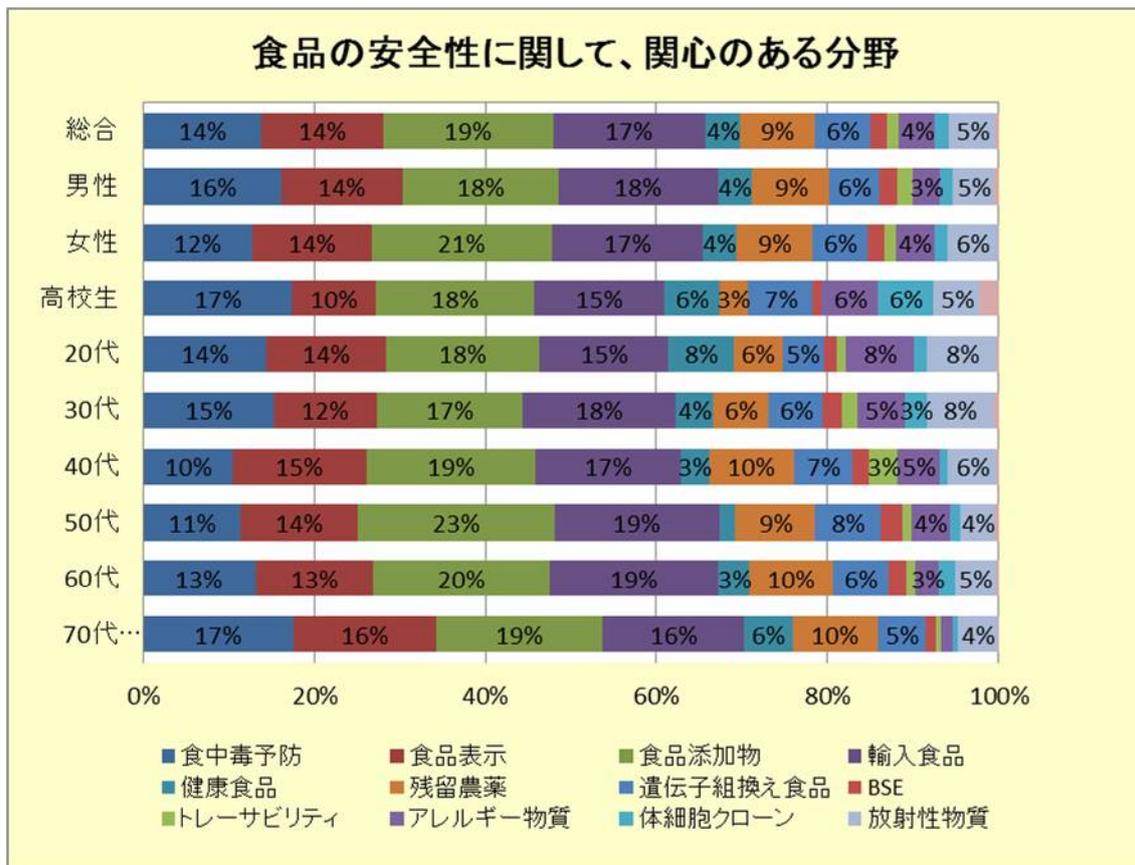


問5 食品の安全性に関してどの分野に関心がありますか。(3つまで選択)

**結果の概要**

**食品の安全性に関して、食品添加物、輸入食品、食中毒予防、食品表示の順で関心が高い**

上記の上位4つはほとんど差がない。次いで、残留農薬について関心がある人が約1割いる。食品の安全性に関して関心がある分野の男女差、年代差はほとんどないが、20代は他の年代に比べてアレルギー物質に関心がある人の割合が少し高い。高校生は体細胞クローンに関心がある人の割合が他の年代に比べて少し高い。

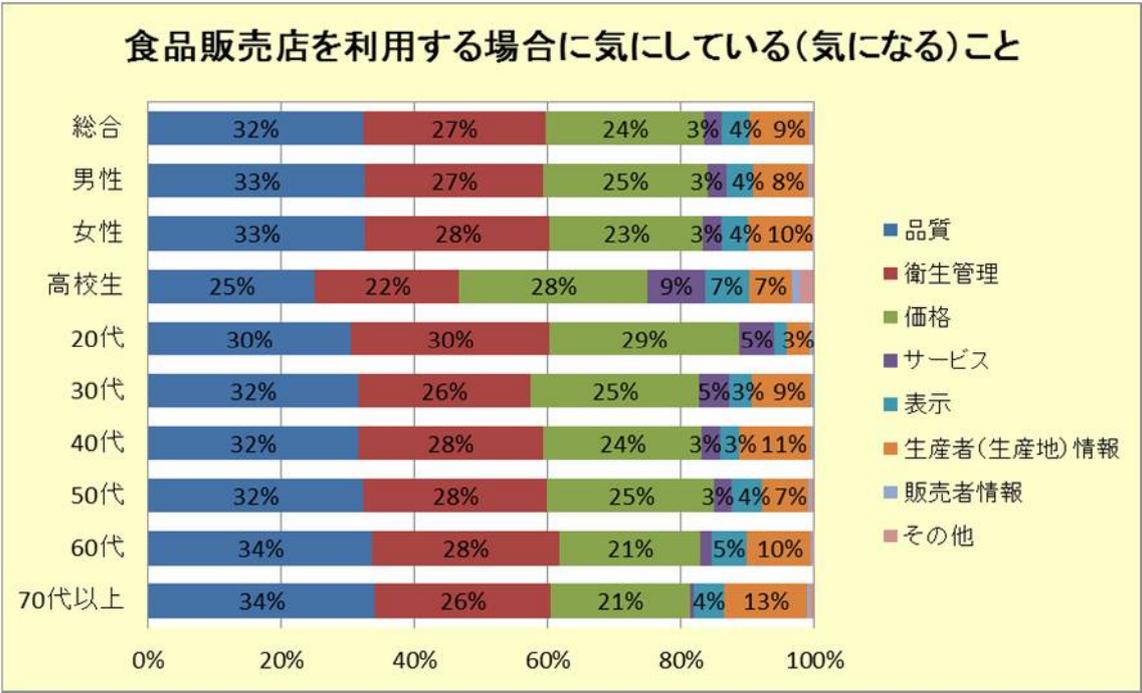


問6 食品販売店を利用する場合、気にしている（気になる）ことはありますか。（3つまで選択可）

**結果の概要**

**食品販売店を利用する場合、品質、衛生管理、価格、生産者情報の順で気にしている人の割合が高い**

上位3つの、品質、衛生管理、価格を気にしている人の割合はほとんど差はなく約3割で、次いで生産者（生産地）情報を気にしている人の割合は約1割となっている。男女差、年代差はほとんどないが、高校生は食品販売店のサービスを気にしている人の割合が他の年代に比べて少し高く、品質や衛生管理を気にする人の割合は反対に少し低い。

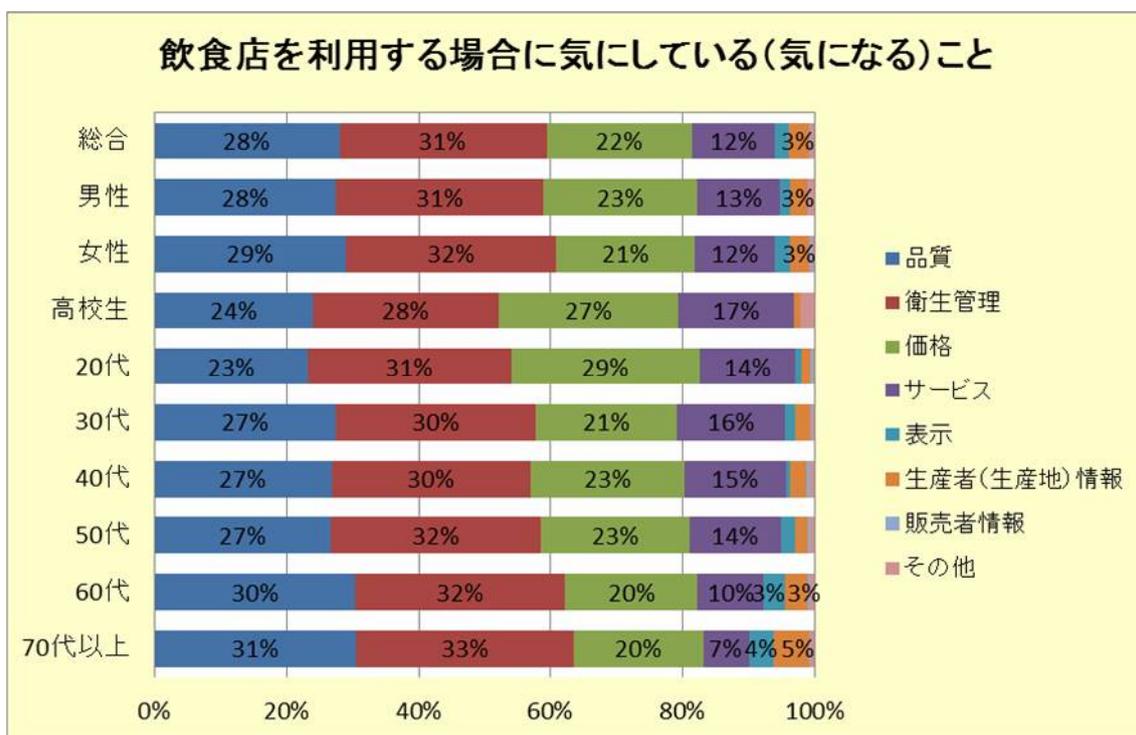


問7 飲食店を利用する場合、気にしている（気になる）ことはありますか。（3つまで選択可）

### 結果の概要

飲食店を利用する場合、衛生管理、品質、価格、サービスの順で気にしている人の割合が高い

食品販売店を利用する場合は品質を気にする人の割合が一番高かったが、飲食店では衛生管理、品質の順になっている。また、飲食店ではサービスを気にする人の割合が食品販売店利用の場合と比べ高くなっている。  
すべての年代で衛生管理を気にしている人の割合が一番高く、男女差、年代差はほとんどない。

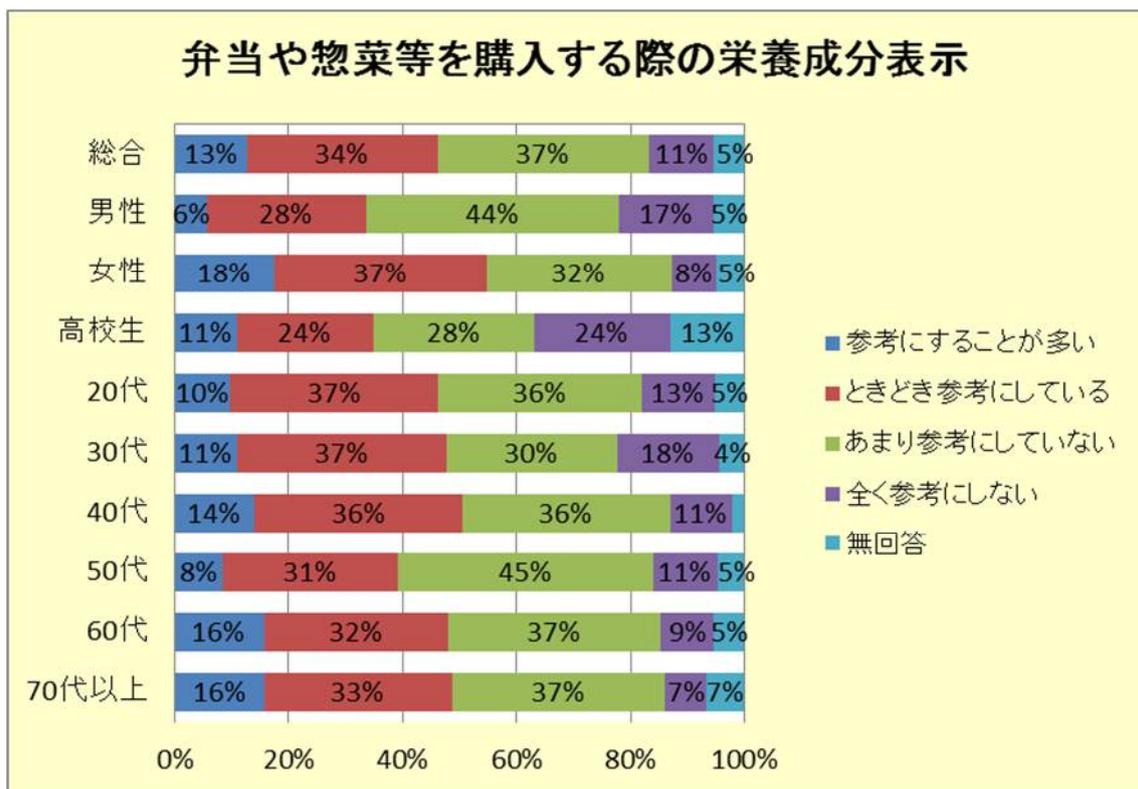


問8 弁当や惣菜等を購入する際に、栄養成分表示を参考にしていますか。

### 結果の概要

弁当や惣菜等を購入する際に、栄養成分表示を参考にしている人は、女性で55%、男性で34%

参考にすることが多いとときどき参考にしているを合わせると、約半数の人は栄養成分表示を参考にしているが、残りの半数の人はあまり参考にしていなかったり、全く参考にしていない。参考にしていない人の割合は、女性に比べ男性は高く、年代別で見ると高校生と50代が高くなっている。

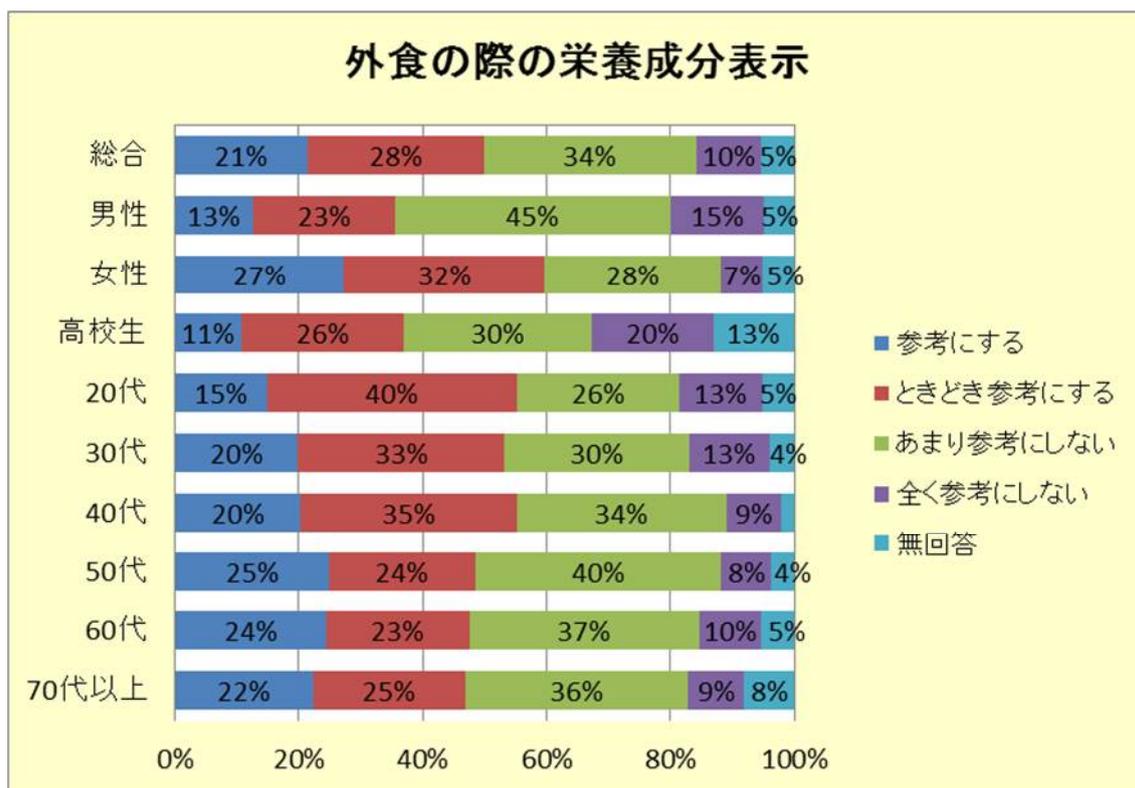


問9 外食の際に、栄養成分表示があれば参考にしますか。

### 結果の概要

外食の際に、栄養成分表示を参考にする人は、女性で60%、男性で36%

参考にするとときどき参考にするを合わせると、女性は約6割の人が外食の際に栄養成分表示を参考にすると答えているが、男性は女性の半分程度しか参考にしない。年代別で見ると、参考にする人の割合が最も高いのは20代で、年代が上がるにつれ参考にする人の割合が低くなる傾向にある。



### Ⅲ. 意見、要望等について

食の安全・安心に関する意見・要望等について尋ねたところ、多数の回答がありました。以下にその一部を紹介します。

#### (1) 食に対する不安について

放射性物質、農薬の安全性等気にはなりますが、正直よく分からないので、何もしようがない。
公害問題など経験している年代は食に対しても気にしていると思うが、若い世代の人が気にしていないのが心配です。
今は出された情報が本当に正しいかどうか不安を抱かずにはいられない状況です。心ない一部の人のせいで日々頑張っておられる人が困ってしまうなど許しがたいことです。表示をくまなくチェックしなくても安心して食べられる生活を心から望みます。
外食や弁当に使われている材料の出所が気になります。
あまり、あれこれと気にしていたら食べれなくなります。気にしないで食べれる様に、安心して買える様になればいいなと思います。
安心・安全は基本条件で、それを個々の消費者が個人で気にしなければならないことに疑問を感じます。
諸外国に比べて日本は食に関して安全だと思います（現在のところ）。でも、これから TPP とかいろいろ食の安全が保たれるのか心配です。
F1 の野菜がものすごく出回っているが、とっても恐ろしいです。

#### (2) 行政への要望について

子供の頃から食品の安心・安全に関して知っていないと、大人になってから急に学ぼうなんて人はなかなかいないと思う。学校とかでも少しずつ話にとり入れてもらえたら、家庭でも話がもちあがってくるように思う。給食の食材は地元産の季節に応じた食べものをどんどんとり入れてやってください。
野菜など安全と思われる町内産を購入するようにしているが、町外のどこで販売されているか分れば助かる。
食品の安心・安全は別に会合とかでなく、大山チャンネルを利用して、若いお母さん達に呼びかけて欲しい。忙しいお母さんもテレビなら見る事が出来ます。

<p>TPP 参加により、食品の安全性が保障されなくなる気がする。鳥取県は農業県です。自給自足を目指して生活できる様、大山町もしっかり行政面でのバックアップして欲しいと思います。自分の体は自分で管理出来る社会にして欲しい。</p>
<p>飲食店の製造許可を取得してからも、定期的な講習や検査などを行っていくべき。人の入れ替わりが激しいので、最初はよくても維持できない場合がほとんど。成分表示の表示規定が曖昧過ぎで、店によって表示内容のバラつきがありすぎる。きちんとした規定を作り、それを書面で配布すべき。調理師等の免許を取得後の講習などもないので、2～3年おきに講習（強制）を行うなどして、免許更新すべきではないのか？</p>
<p>農薬はどうして使うのか、無農薬だと何が安心なのか、これからの子ども達に教えてあげてください。キャベツの中に虫がいるのは怖い事でも、きたない物でもありませんよ。子どもに教えて子から親へ教えてもらうのも良いですね。</p>
<p>消費者が実際に食品に触れる際に意識を向けられる施策が必要だと思います。</p>

### (3) 食品関連事業者への要望について

<p>地産で減農薬の野菜販売コーナーの設置をしてほしい。(道の駅、A コープ、スーパー等)</p>
<p>飲食店で地元の食材を利用している場合には積極的な生産者のアピールをするのも良いと思います。</p>
<p>消費期限とか添加物、その他の事項をわかりやすく大きな字にしてほしい。</p>
<p>アレルギーの子供を持っていても、安心して外食や購入をしたいと思いますので、アレルギー表示の徹底を希望します。</p>
<p>地産地消に協力したいが、個人で食べる場合は価格の安い品の方に手が出るので、地産品の価格が下がると良い。販売店に生産者の写真、コメントなどを添えて安全性等についてアピールする。</p>
<p>品物によっては販売者のみで製造者が表示されていないものもあるので、全ての物に製造国なり製造者を表示してほしい。</p>
<p>お店に賞味期限切れの商品を見たことがあるので、そういう期限切れとかを『しっかり』チェックしてほしい。</p>
<p>国産品は高いのでもう少し安くしてほしい。(流通をよくしてほしい)</p>

#### (4) 食の安全・安心に対する消費者のあり方について

お金さえあれば、いつでもどこでも食べ物が手に入るようになった飽食の時代だからこそ、食についての知識をしっかりと持って欲しいです。体には何が必要で何が有害なのか、小さいうちから楽しく学ぶことが大事かな～と思います。

保育園、学校での食材は特に安全なものがよいと思う。自分が植物、野菜などを育ててみれば、虫がついたり、病気になったりする事もわかるし、収穫の喜びもわかると思います。子どもや大人もその様な経験をして、商品としての野菜でなく、食品として見ることのできる人になりたいものです。

食品の安心・安全に関して、これから関心を持つようにしたいと思いました。

作る土地のある人は出来るだけ自給自足で生活したら良いと思います。生産することはすばらしいです。

農薬に頼りすぎ（消費者の見栄え嗜好が問題）

子どもがいるので、できるだけ地元産の安心な食材を選ぶようにしています。

#### (5) その他

なるべく自家生産の物を使う。郷土料理、保存食とかもっと習って食事に生かしたい。☆ ネットで今すぐに料理を調べる事が出来、大変便利。例えばズッキーニがたくさん採れた何作ろう→調べる→作る

食べ物が豊富にあり過ぎ、セーブすることが難しい。「朝食は不要だ」という説もかなりあり、本を読んでみるとそれも一理ありと思う。一方では食育のように朝食の大切さを訴えているし、、、。必要な栄養素を最低限摂取するだけでも味気ない。すごく悩ましいです。健康食品、サプリメントは本当に安全なのか、必要なのか疑問です。CMが多すぎて摂取しなければならぬように誘導される。

毎日野菜と米作りに頑張っています。農薬を使わずに作りたいですが、無農薬では作れません。低農薬を心掛けています。

野菜と農薬の関連について詳細をしりたい。又、他国と日本の農薬使用の相違を知りたい。

#### IV. まとめ

社会的に問題となった食品事件や衛生上の事故、偏食による栄養バランスの乱れ、アレルギー問題など、食にまつわる課題は多岐にわたっています。このような中、安心安全な食環境を構築するためには、生産や流通過程での安全確保が図られること、それらに関する正しい情報が公開されること、加えて、消費者が意識をもってこれらに注意を払うことが重要です。

遠隔地の魅力的な産品の取引を可能にする物流は社会に欠かせません。しかし、食品が口に入るまでの経過がたどりやすいという点で、地産地消は有効です。また、地元産品の良さを認識してもらい、生産・消費を促すことで地域に活力が生まれます。

今年度、消費者行政活性化交付金を活用し、広く一般町民を対象とした講演会、リーフレットの配布、国の食品安全行政や流通関係者をパネリストにむかえてのシンポジウム、保育所での出前講座を実施しました。この一環で行った今回のアンケートは、町民が食の安心安全に関する意識がどのようなものであるかを把握するために行いましたが、自分たちが食する食材や流通などに対する関心の高さを知ることができました。このアンケート結果をふまえ、食の安心安全について、今後も各分野で連携をとり合い、よりよい施策を実施していきます。

## V. 調査票

### 「食の安心・安全に関する意識調査」

#### 問1 食品に対する不安を感じていますか。

1. 非常に不安である
2. ある程度不安である
3. あまり不安を感じていない
4. 全く不安を感じていない
5. よく知らない

#### 問2 食品表示を見ていますか。

1. よく見ている
2. ときどき見ている
3. あまり見ていない
4. 全く見ていない

#### 問3 食品を購入するときに、最も気をつけていることはなんですか。

1. 栄養面
2. 安全性
3. 味や好み
4. 値段
5. 料理の手間
6. その他 ( )

#### 問4 食品の安全性に関する基本的な知識を持っていますか。

1. 持っている
2. まあまあ持っている
3. あまり持っていない
4. 持っていない

#### 問5 食品の安全性に関して、どの分野に関心がありますか。(3つまで選択可)

1. 食中毒予防
2. 食品表示
3. 食品添加物
4. 輸入食品
5. 健康食品
6. 残留農薬
7. 遺伝子組換え食品
8. BSE\*
9. トレーサビリティ\*
10. アレルギー物質
11. 体細胞クローン\*
12. 鶏・豚インフルエンザ
13. 放射性物質
14. その他 ( )

※BSE…牛の脳の中に空洞ができ、スポンジ状になる病気。いわゆる狂牛病のこと。

※トレーサビリティ…対象とする物品(とその部品や原材料)の流通履歴を確認できること。

※体細胞クローン…体細胞を使ったクローン技術により、同じ遺伝的特徴を持つものを生み出す。この技術により人為的に選んだ遺伝的特徴を持つ動物の大量生産などが可能になる。



## **食の安心・安全に関する意識調査報告書**

---

発行／鳥取県大山町 <http://www.daisen.jp/>

編集／大山町保健課

〒689-3211

鳥取県西伯郡大山町御来屋 467

TEL 0859-54-5206

FAX 0859-54-5087